

欧州委員長人事とドイツ政局(続)

～薄氷の委員長承認とポスト・メルケル～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 田中 理 (TEL: 03-5221-4527)

- ◇ ドイツのフォンデアライエン国防相の欧州委員会・次期委員長への就任が欧州議会で承認された。同氏の承認が否決されれば、EU高官人事は白紙に戻る恐れもあった。同氏の承認を巡っては、親EU会派の間で対応が割れ、僅か9票差での承認となった。分断した欧州議会の構成から予想される通り、今後のEU運営の難しさが出だしから明らかとなった。
- ◇ EU政界に転身するフォンデアライエン氏の後任には、ポスト・メルケルの最有力候補とされるクランプ＝カレンバウアー党首が指名された。相次ぐ失言や選挙戦の失敗を受け、後継者候補としての同氏の資質を問う声も聞かれる。ドイツ国防省は現在、軍の装備・人員不足やスキャンダルに揺れている。難しいポストに同氏を充てた今回の人選からは、後継者としての資質を試す意図が読み取れる。

欧州委員会の次期委員長候補に指名されたドイツのフォンデアライエン国防相に対する承認投票が16日に欧州議会で行われ、同氏の委員長就任が承認された(図表1)。投票は無記名で行われ、承認には現議席747(定数は751)の絶対過半数である374票の賛成が必要だった。投票結果は、賛成383、反対327、棄権27と、必要な賛成票を僅か9票上回る際どい承認となった。今回の委員長人事では、欧州議会の各会派が擁立した委員長候補(筆頭候補)の指名を欧州首脳が拒否し、ドイツやフランスの首脳等が議会の人選を無視した独自候補を擁立したことで、議会に反発が広がっていた。

(図表1) 主なEU高官候補

役職	今年退任するEU高官	後任候補
欧州委員会委員長	ジャン＝クロード・ユンケル (元ルクセンブルク首相・財務相)	ウルズラ・フォンデアライエン (ドイツ国防相)
欧州理事会常任議長(通称EU大統領)	ドナルド・トラスク (元ポーランド首相)	シャルル・ミシエル (ベルギー首相)
欧州議会議長	アントニオ・タヤーニ (イタリア出身の元欧州委員)	ダビド・サツリ (イタリア出身の欧州議會議員) ～2年半で交代予定～ マンフレート・ウェーバー (ドイツ地域政党出身の欧州議會議員)
EU外務・安全保障政策上級代表	フェデリカ・モゲリーニ (元イタリア外相)	ジョセップ・ボレル (スペイン外相、元欧州議會議長)
ECB総裁	マリオ・ドラギ (元イタリア中銀総裁)	クリスティーヌ・ラガルド (IMF専務理事、元フランス財務相)

注: 色分けは欧州議会での下記の会派区分、赤字は女性

- 欧州人民党(EPP) <中道右派>
- 社会民主進歩同盟(S&D) <中道左派>
- リニュー・ヨーロッパ<リベラル>
- 無所属

出所: 各種報道より第一生命経済研究所が作成

同氏が所属する欧州人民党（EPP）に加え、次期EU大統領にベルギーのミシェル首相を送り出したリニュー・ヨーロッパ（欧州刷新）の多くの議員がフォンデアライエン氏を支持した模様だが、親EU会派のうち欧州緑の党・自由連盟（Greens|EFA）が会派として不支持を表明、第二会派の社会民主進歩同盟（S&D）の対応が割れ、同氏の出身政党のキリスト教民主同盟（CDU）とドイツの国政運営で連立を組む社会民主党（SPD）が不支持に回った一方で、EU外務・安全保障政策上級代表に同国出身者を送り出すスペインの社会労働党（PSOE）が支持した（図表2）。EUに懐疑的な会派の多くが反対票を投じたが、イタリアのポピュリスト政権を率いる五つ星運動（無所属）、ポーランドの保守系政権与党・法と正義（欧州保守改革<ECR>に所属）が同氏を支持した模様。親EU会派の票が割れ、EUに懐疑的な政党の協力で、どうにか次期委員長の座が確定した。

（図表2）欧州議会の会派・国別構成と次期欧州委員長の承認投票での支持・不支持

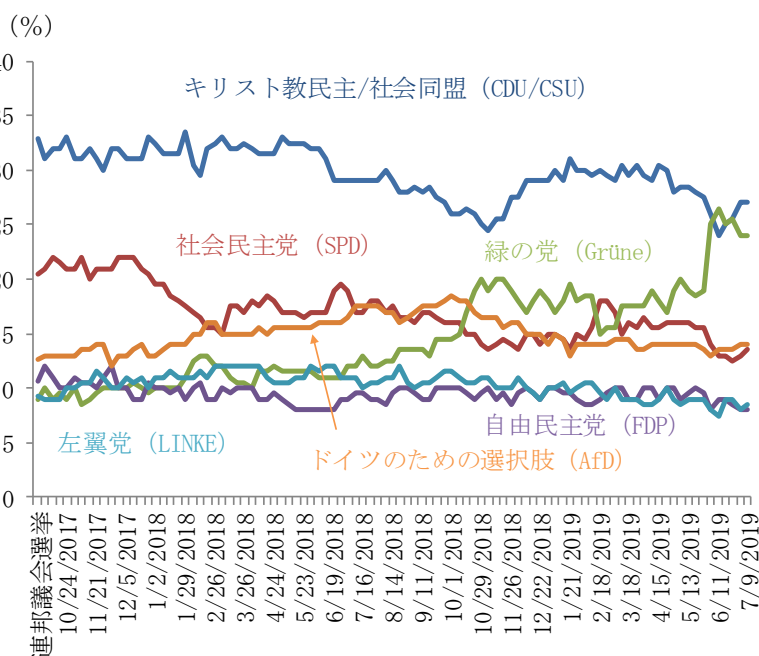
	欧州人民 党 (EPP)	社会民主 進歩同盟 (S&D)	リ ニュー・ ヨーロ ッパ (欧州 刷新)	欧州緑の 党・自由 連盟 (Greens EFA)	アイデン ティティ と民主主 義 (ID)	欧州保守 改革 (ECR)	欧州統一 左派・北 部緑の左 派 (GUE NG L)	無所属	合計
ベルギー	4	3	4	3	3	3	1		21
ブルガリア	7	5	3			2			17
チェコ	5		6	3	2	4	1		21
デンマーク	1	2	5	2	1		1		12
ドイツ	29	16	7	25	11	1	6	1	96
エストニア		2	3		1				6
アイルランド	4		1	2			4		11
ギリシャ	8	2				1	6	4	21
スペイン	12	20	8	2		3	6		51
フランス	8	5	21	12	22		6		74
クロアチア	4	3	1			1		2	11
イタリア	7	19			28	5		14	73
キプロス	2	2					2		6
ラトビア	2	2	1	1		2			8
リトアニア	4	2	2	2		1			11
ルクセンブルク	2	1	2	1					6
ハンガリー	13	5	2					1	21
マルタ	2	4							6
オランダ	6	6	6	3		4	1		26
オーストリア	7	5	1	2	3				18
ポーランド	17	8				26			51
ポルトガル	7	9		1			4		21
ルーマニア	14	10	8						32
スロベニア	4	2	2						8
スロバキア	4	3	2			2		2	13
フィンランド	3	2	3	2	2		1		13
スウェーデン	6	5	3	2		3	1		20
英国		10	17	11		4	1	30	73
EU	182	153	108	74	73	62	41	54	747

注：青は支持を表明した政党、赤は不支持を表明した政党、緑字は支持した可能性が高い政党
出所：欧州議会資料より第一生命経済研究所が作成

5月の欧州議会選挙でE P PとS & Dの二大会派が議会の過半数を失い、安定した議会運営には、リニュー・ヨーロッパや欧州緑の党・自由連盟など他の親EU会派の協力が不可欠な状況にある。各会派の所属議員と面会したフォンデアライエン氏は、承認投票での支持獲得に向け、欧州議会の権限拡大（法律の提案権）、筆頭候補制の尊重、労働者保護の強化（EU統一の最低賃金制度、若年失業対策の強化）、環境対策の強化（2030年までに温室効果ガスを55%削減）などを訴えた。各国1ポストの欧州委員（EUの閣僚に相当）を指名し、欧州議会での承認作業も控えている。今回の議会承認は筆頭候補制が蔑ろにされたことに対する不満という特殊要因もあったが、委員長承認を巡る親EU会派内の亀裂は、今後の議会運営の難しさを示唆する。

フォンデアライエン氏に代わるドイツ国防相の後任には、昨年12月にCDUの党首に就任したクランプ＝カレンバウアー氏が指名された。ポスト・メルケルの最有力候補とされる同氏は、党首就任後の度重なる失言や選挙戦の失敗で、後継者としての資質を問う声も浮上している。ドイツの国防相は現在、連邦軍の装備や人員不足が深刻なうえ、外部コンサルタントへの不適切な業務発注疑惑などに揺れている。今回のフォンデアライエン氏の承認でも改めて連立政権内の亀裂が表面化、秋の州議会選挙の結果を踏まえ、SPDは連立にとどまるかの決断を迫られる。CDUは世論調査で緑の党の猛迫を受けているほか（図表3）、メルケル首相の健康不安説も浮上している。今後のドイツの政治安定には、次期連邦議会選挙に出馬しない意向を示唆しているメルケル首相の後継者育成が喫緊の課題と言える。クランプ＝カレンバウアー氏は閣僚経験がない。国防相の後任には現職閣僚を横滑りさせ、クランプ＝カレンバウアー氏は別の閣僚としての入閣を予想する声もあった。難しいポストに同氏を充てた今回の人選からは、後継者としての資質を試す意図が読み取れる。

（図表3）ドイツ連邦議会選挙の支持率調査



出所：INSA資料より第一生命経済研究所が作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。